

令和3年度
学校関係者評価報告書

令和4年5月21日

学校法人すみれ学園

四国医療工学専門学校

1.学校関係者評価委員会

委員

- 村上 武 委員長 (高知大学医学部附属病院 医療技術部 副部長)
北岡 加恵 委員 (株式会社 Yell Pharmacy 人財開発課長)
松本 江身子 委員 (本校在校生保護者)
(欠席) 米本 聖哲 委員 (医療法人 緑風会 海里マリン病院 事務次長)
(欠席) 押岡 智雅 委員 (学校法人 みかづき学園 みかづき幼稚園 園長)

学校

- 清岡 鈴子 (医療情報学科長)
吉田 拓矢 (臨床工学学科長)
中平 景子 (事務課職員)
(欠席) 内田 信弉 (校長)

(計 9 名)

2.学校関係者評価の実施方法、公表

学校関係者評価の実施にあたり、学校関係者評価委員に本校作成の自己評価報告書の結果を説明し、各委員から評価結果についてのご意見をいただいた。各委員からいただいたご意見は、本報告書の中に取りまとめ、今後の教育活動や学校運営の改善に生かし、教育の向上に努めることとする。また本報告書はホームページにて評価結果を公表する。

3.学校関係者評価委員会 開催日時

令和 4 年 5 月 21 日 (土曜日) 10 時 00 分～11 時 00 分 本校 5 階基礎医学実習室

1.開 会

2.出席者紹介

3.自己評価報告書説明

4.質疑応答

自己評価報告書について、質疑応答や改善点の提案等について意見交換 (別紙参照)

5.総 括

6.閉 会

別紙

令和3年度 学校関係者評価委員会 質疑応答・意見内容

発言者	質疑応答・意見内容
欠席者1（書面）	<p>自己評価はいずれも適切であると考えます。</p> <p>今後の課題・改善方策等に基づいて進んでいかれることを期待しております。</p> <p>国家試験合格率 100%を目指して取り組んでいただければと存じます。</p>
欠席者2（書面）	<p>自己評価の達成状況について、適正であると判断します。</p> <p>新型コロナウイルスの影響により、従来通りの学校運営が難しい中で、すべての大項目がA評価となっており、教職員全員が一丸となって学校運営・教育活動に取り組んでいることが分かります。</p>
発言1	<p>聴講生制度について、とても良い制度だと思います。費用や対象を教えてください。</p>
吉田学科長	<p>費用は前期¥150,000、後期¥150,000、合計¥300,000です。卒業生を対象としております。</p> <p>対象者への周知についてですが、国家試験の結果が不合格の学生が対象ですので、昨年度の卒業生については周知ができていますが、規定ができる前の不合格だった卒業生については周知ができておりません。</p>
発言2	<p>案内ができていない卒業生に対して、周知をしてもらいたいと思います。</p> <p>私も卒業後に改めて勉強したいと何度も思ったことがあります。</p> <p>例えば、臨床工学に関する必要がある場合、大学院に行っても学びたい科目をなかなか学べなかつたりするので、自身の母校に戻って習った先生方に教えていただく機会があれば、卒業生にとっても良いですし、在校生の方と卒業生の方の繋がりが持てると思います。そういった交流があってもいいのかなと思います。コロナ禍なので難しい面もあると思いますが、交流に繋がる機会になれば良いかと思いました。</p>

<p>発言 3</p>	<p>学生が自分だけで勉強をするのは大変だと思いますが、それは我々卒業生も同じです。教室に入って机に座って、学校という場で勉強を提供していただけるのは、学習効果も上がって個人的にはいいと思います。社会人向けの講習会となると先生方の負担も増えますし、コストも上がってくると思います。一方で、受講者の費用が¥150,000 くらいであれば働いている者にとって、それほど厳しいものではないかと思います。例えば電気工学や電子工学など、学校を出ると独学での勉強がとても難しいです。可能かどうかわかりませんが、授業を邪魔しない程度に参加をさせてもらうとか、動画に撮って配信していただくとか、色々な形があれば良いかと思います。</p>
<p>吉田学科長</p>	<p>授業を動画で残して公開するという方法は、現在考えているところです。自身は工学系の教員ですが、授業はパワーポイントを使用しております。パワーポイントは図を多用することからノートをとるにも時間がかかり、授業スピードが落ちるというデメリットもあるため、授業中のスマートフォンの活用や、授業で使用したパワーポイントのスライドをウェブにアップすることなどを進めております。このような資料に授業の音声を入れて公開できるような形にしていくということは、考えられるかと思ひます。</p>
<p>発言 4</p>	<p>ZOOM のオンライン講義が現在かなり増えてきて、遠隔でオンライン講義を受けた方が効果的であるというレポートもあるようです。オンラインで講義を受けられている方には、複数回見ている人もいて、学ぼうとしている人にとっては学びやすいと思います。授業だと 1 回しか聞けなかったものが、オンライン（オンデマンド配信）だと複数回聞けますし、メモを取る必要もありません。最低ラインをクリアしていれば、今までの教育とほぼ一緒のことができるかと思ひます。</p>
<p>吉田学科長</p>	<p>オンライン化はとても良い取り組みだと思います。 他にも今年度は黒板のホワイトボード化を進めていき、プロジェクターで投影して、そこに書き込んでいくということを進めていきたいと思ひています。 教育の仕方を変えることや、環境を整えていくことで、授業をブラッシュアップしていくことが必要と考えております。</p>

<p>発言 5</p>	<p>学生支援についてですが、家でオンライン講義を受けている際に学生によっては『全然聞けませんでした』というトラブルがでてくる場合があります。後で配信するのも良いですが、(学生と質疑応答をするためには)リアルタイムであることが必要かと思いません。学費の面もありますし、どこまで支援するかなどを考えないといけないと思います。</p>
<p>吉田学科長</p>	<p>コロナ禍で授業ができない時の対策を検討しており、ネット環境が整っていない学生については、オンラインで授業をする際にポケット Wi-Fi を貸与するというものを検討しました。</p> <p>(休校の期間が短かったため) オンライン授業は、実施せずに済みました。</p>
<p>発言 6</p>	<p>オンライン化をしたら、他県にも学びたい人がたくさんいると思います。他県から学生を募集するには、他の学校との差別化を図らないと難しいと思います。</p> <p>学びたい人に対して、教育を提供していくということをどんどんアピールしていくと他県からの学生も集まる可能性があると思います。実習等もありますので難しい面もあるとは思いますが、より良い教育ができるということになれば、ライバルが多い中で変わってくるのではないかなと思います。</p>
<p>吉田学科長</p>	<p>本校のような専門学校では、医療情報学科は医療事務、臨床工学学科は臨床工学技士を目指すというように入口と出口がはっきりしています。一方で、出口についてはもう少し可能性を広げてあげたいとも思っております。</p> <p>学生が勉強をしていく中で、『方向性が違ったな』と思った時に学校を辞めるしか選択肢がないのは辛いところです。明らかに方向性が違う進路変更ならば(退学は)仕方がないですが、医療の方向で何か別のことをやりたいと思う学生に対しては出口を広げてあげることが出来れば良いと考えております。</p> <p>医療情報学科に比べて、臨床工学学科の方が出口の広がり狭いように感じられます。</p>

<p>発言 7</p>	<p>自身の経験を伝えること、人との繋がりを設けることや調整するような能力があると、別の仕事がどんどん入って来たりします。臨床工学技士免許を持っていたとしても、必ずしも臨床工学技士として働かなくてもいいと思います。可能性を学生に見せてあげる、ということが大事になってくると思います。</p>
<p>発言 8</p>	<p>自己評価報告書を見て点検項目の去年と同じところに×がありますが、×を○にしたいのか、項目自体を外したいのかで変わってくると思います。地域連携のところはいつも×ですが、学生には地域を知ってもらうことや、地域と繋がることで教育等、様々なことが変わってくるかと思っています。地域との繋がりは重要だと考えます。</p>
<p>吉田学科長</p>	<p>卒後の出口は色々ありますよ、という学生への案内を増やしていきたいと思っています。</p> <p>また保護者の方や本人の大学志向というのもあると思いますが、専門学校においても卒業後の進学の道や、臨床工学技士免許を取得した上での他の働き方など可能性を広げていきたいです。</p>
<p>発言 9</p>	<p>キャリアアップをする上で、卒業・就職することがゴールではないということをアピールしていくべきだと思います。連携できることがあれば、協力させていただきたいです。広く活躍できる方が増えればいいと思います。</p>
<p>発言 10</p>	<p>リムーバブルメディア等の情報漏洩については、対策が必要かと思っています。法律も変わりましたし、病院もかなり厳しくなっております。学校というところは、学生が多いので感染等も含めてリスク管理が難しいという面があると思います。</p>
<p>村上委員長</p>	<p>【総括】 私にとっては母校です。高知では臨床工学技士を育てる唯一の学校ですし、医療情報学科の方々にとっても重要な教育機関であると認識しております。ぜひ持続性を持ってこれからも続けていただき、ずっとここにある教育機関として、卒業生や周りも私は応援していきたいと思っております。よろしく願いいたします。</p>